

「エール」古関裕而さんの作曲した「ユネスコの歌」

手に手をとって (ユネスコの歌)

菱山修三 作詞
古関裕而 作曲

明るく楽しく ♩=112

せかいじゅうのひとたちがみんな手に手を
つないだらせかいは一日の照るまひるに
なるとみんなはなわをつくったらはな
わとはなわをむすんだらぐるぐるまわる輪
になっでひろい地きゆうをかこんだら
せかいはあかるいそのなるああ
ユネスコああ ユネスコ

毎年、全国大会の開会式で歌う「ユネスコの歌（手に手をとって）」は、民間ユネスコ運動に携わる私たちにとって、とても馴染みの深い曲です。

日ユ協連事務局でも、毎朝この曲を流してから業務を開始しています（今は新型コロナウイルス感染拡大防止対策で時差通勤を実施中のため残念ながらお休み中ですが）。

すでにご存じの会員もいらっしゃいますが、実はこの曲、NHK

朝の連続テレビ小説「エール」主人公・古山裕一の実在モデル、古関裕而さんに作曲いただいたものです（作詞は菱山修三さん）。1957年に完成した「ユネスコの歌（手に手をとって）」は、同年6月の第13回日本ユネスコ運動全国大会で初披露されました。以来、今日まで全国大会やユネスコ子どもキャンプなどで歌いつがれてきました。

そしてもう一つ、この「ユネスコの歌（手に手をとって）」ができるまで、初期の集いで歌われていた曲に「ユネスコ青年歌」があります。この曲は、同じくドラマ「エール」で故・志村けんさん演じる小山田耕三の実在モデル、山田耕筈さんの作曲です。

古関裕而さん、山田耕筈さんという錚々たる作曲家の方々に支えられ、民間ユネスコ活動が今日に至っています。私たちのユネスコ活動も、これまでに経験のない対応を講じなくてはならず模索を続けながらの日々ですが、「ユネスコの歌」を歌って、“世界をあかるい苑（その）”にしましょう！